# 寒冷地形談話会通信

91年第１号　91/06/16発行

事務局／〒192-03　東京都八王子市南大沢１－１
東京都立大・理・地理院生室　0426-77-1111（内3836）

１．90年３月例会発表要旨
前号で掲載できませんでした大宮氏の発表要旨は以下のとおりです。

▽大宮　剛（学芸大・研）：「雲取山におけるブナ林の立地条件」
ブナは冷温帯落葉広葉樹林の主要な構成樹種の一つであり、日本では北海道から九州まで広範囲に分布する。日本のブナ林は気候的、地形的差異により日本海側・太平洋側の２タイプに分類される。前者は純林を構成するのに対し、後者の分布は限られたものになっている。本研究では太平洋岸のブナ林の群落レベルでの立地条件を雲取山を例に検討した。この結果以下のことが明らかになった。
1)雲取山においてブナは、日本海側のようにまとまった林分となって出現することなくミズナラやツガと混成する形で高木層にわずかに出現する。
2)植生と地形との間に対応関係がみられ、ブナは尾根に分布する。尾根にはブナの他にトウヒ、ミズナラ、ヒノキ、ツガ、モミなどが分布する。谷頭斜面にはダケカンバ、ミズナラ、イヌブナなどが分布し、谷底斜面にはシオジなどが分布する。地形と植生との対応は各樹種の耐乾性の違いや、それぞれの地形が形成された過程の違いに基づく。
3)例外的に石灰岩露岩地周辺で高木層にブナが卓越する地域が見られた。そこでは実生も観測されたことから、活力が弱いとされている太平洋側のブナ林のなかでは成育条件に恵まれたタイプのブナ林であると考えられる。
4)高木層に達している現存のブナは、現在よりも多雪湿潤であったと考えられる寒冷な時期に成立したものが、以後の開析前線の上昇により、分布域を尾根に限定・残存したものと考えられる。
【文責：大宮】

２．91年５月例会発表要旨
６月１日、極地研究所にて第１回例会が開催されました（当日は高山・極地グループの研究集会も同時に開催されました）。発表者と演旨は以下のとおり。

▽苅谷愛彦（都立大・院）：「残雪凹地の分類に関する提案」
最近の周氷河地形学者の関心が凍結融解作用やそれによる地形に向けられてきた反面、雪の直接・間接作用のもとで生ずる地形の研究はそれほどなされていない。景観的にも強い印象を与える残雪凹地（雪窪）については山中（1979）いらいこれという前進がないが、その分布、形態や形成プロセスを明らかにすることは重要だろう。一方、残雪凹地についての概念が研究者によってまちまちであったことも指摘できる。そこで作業・議論の前に残雪凹地とは何かをある程度明確にしておく必要があると考えた。現時点では、現地・空写上において越年雪－砂礫地－粗な植生という同心円状景観と傾斜変換線に着目し、直観的に抽出するのが適当と思われる。これを規準として分類された残雪凹地を大雪山、月山、三国山地を例に紹介した。　【文責・苅谷】

▽高岡貞夫（都立大・院）：「宗谷丘陵北部における明治以降の植生変遷」
花粉分析によらない植生変遷の研究法についてふれ，宗谷丘陵北部における最近 100年間の植生史を検討した．現存する樹木群落の齢構造の分析やササ原の下に埋もれる古材の同定を行なった結果，開拓以前の本地域の原植生はトドマツやエゾマツなどが優占する森林（針広混交林）であり，その大部分が1911年の火災によって消失したことが明らかになった．その後，より内陸側の地域では速やかに樹木が侵入してダケカンバ一斉林が形成されたが，岬の周辺では一部を除いて森林が再生せず，無立木にちかいササ原が出現した．もとの森林の破壊は同時であるのに，その後の植生回復過程が異なったのは，風衝強度の地域差によるものであると考えられる．密生するササ原の中に樹木が侵入するのは容易でなく，今後も長期にわたって森林に回復するのは困難であろう．
【文責：高岡】

３．今年度の夏の学校について

今夏は木曽駒ケ岳周辺で開催される運びとなりました。案内は小泉武栄・中新田育子・青木賢人（学芸大）他のみなさんを予定しています。８月上旬に実施される予定ですが詳細は追って連絡さしあげます。

４．羽田野誠一氏の死を悼む

すでにお知らせしましたように、本会会員羽田野誠一氏（国土地理院）が４月29日永眠されました。後氷期開析前線の指摘（羽田野，1985）は氏の業績の一つですが、これまで周氷河地形学のみならず幾多の地形研究でこの概念が引用されてきたことは申し上げるまでもありません。氏の果たした地形学への貢献を一口で語ることがきわめて難しいほど、氏の存在は大きかったと思われます。昨年10月例会に出席された氏は活発に討論にのぞまれ、その後の席での発言も示唆に富んだ興味あるものでした。また朝日連峰の自然保護にも尽力され、この２月に事務局あて分厚な資料を頂戴した矢先の出来事でした。氏の業績をたたえるとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。［事務局よりお香典を供えさせていただきましたことを申し添えます］

【文責：苅谷】

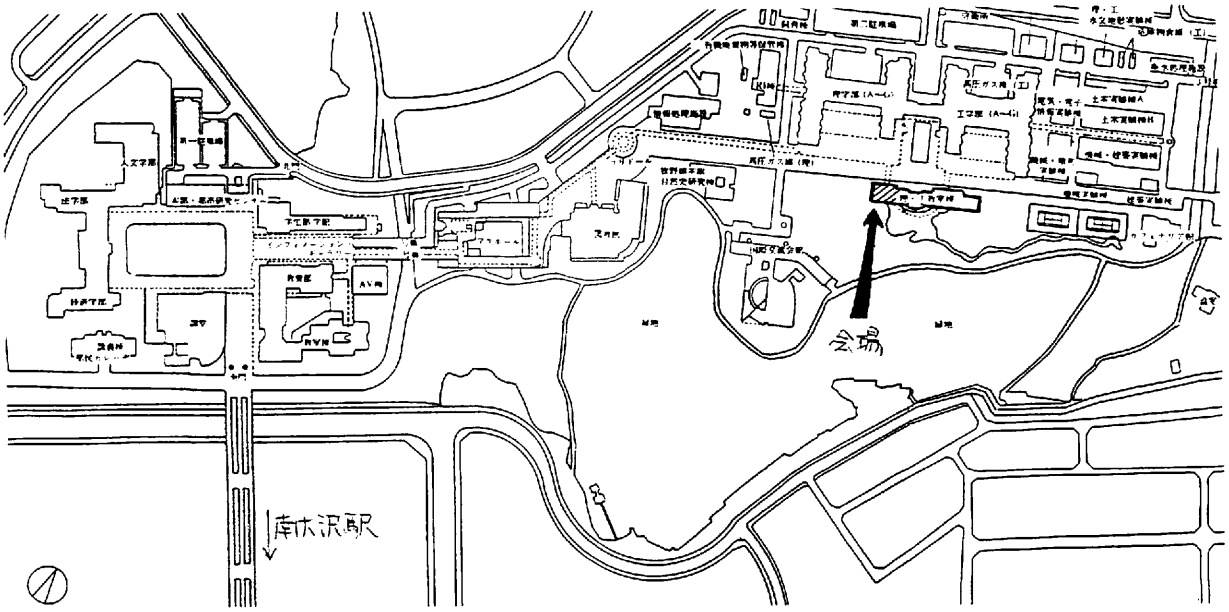
５．７月例会のおしらせ

７月例会を次の要領で開催します。ふるってご参集ください。

日時：７月６日（土）、１５：００～
会場：都立大学 理・工教室棟３０１号室
発表：原田暁之（明治大・院）：多雪山地の雪崩地形
　　中新田育子（学芸大・院）：木曽駒ケ岳周辺の高山植生
　　青木賢人（学芸大・学）：木曽駒ヶ岳の地形

６．その他

①前回お配りした名簿にいくつかの訂正箇所がありました。９月までには訂正をお知らせできると思いますので今しばらくご堪忍ください。
②今年度会費￥1,500.をお支払いください。　［東京０－１７１３４２］
③上高地自然史研究会６月集会のお知らせ
　６月22日　15:00～　日本山岳会（地下鉄有楽町線麹町駅またはＪＲ市ヶ谷駅下車；上智大と日本テレビの間の通り沿い）
　「上高地における現在の地形変化と災害危険度」（岩田修二）ほか
　問合せ：岩船昌起（東北大・院／022-222-1800，内3462）

会場案内

都立大学は今年４月に八王子市に移転しておりますので，おまちがえのないようご注意下さい．
京王相模原線南大沢駅下車（新宿から快速で４３分），駅のすぐ北側に大学が見えます．